



人物編

平成30年に制定された「ゆたさむらビジョン」の5つの基本施策に関する分野で活躍する読谷村の次世代を担う方々にお話を伺いました。

フンシ トゥシナティ ユチユチ トゥク

- ① 風水として悠々と暮らさ（自然と調和した潤いのあるむらづくり）

伊波 克典氏

デユ ヒトウ ヌ マナ スダ

- ② ちむ清らさあるひとの学び育ち（夢を育み生涯輝けるひとづくり）

鈴木 理美氏

ウマンチュ ウラ フク ティ ガンジュウヌ シマ

- ③ 御真人や笑い誇て健康の村（未来が輝くハツラツむらづくり）

島袋 孝子氏

タゲ イチユ ウク クカニ ハナサカ

- ④ 互いに勢い起ち黄金花咲さ（人集い活力と魅力あふれるむらづくり）

知花 竜氏

スリ ティチュク ヘイワ ヌ ユ

- ⑤ うち揃て創らな平和の世一（平和で平等な協働のむらづくり）

多和田 友氏



伊波 克典

- グローバル・フットプリント・ネットワーク
研究員 / アジア地域プロジェクト推進担当
www.footprintnetwork.org/
- 農業経営者（トルコギキョウ）
www.facebook.com/183farm/

フンシ トゥシナティ ユチユチ トゥク

風水として悠々と暮らさ（自然と調和した潤いのあるむらづくり）



プロフィール

1973年読谷村字伊良皆生まれ。琉球大学、サンタモニカ・カレッジ、沖縄国際大学大学院（環境経済）を修了後、2008年米カリフォルニア州にある国際シンクタンク「グローバル・フットプリント・ネットワーク（GFN）」に就職。専門は、環境負荷の影響を包括的 値化する「エコロジカル・フットプリント」分析。2013年、結婚を機に帰国。活動拠点を読谷村に移し、引き続き、GFNの研究員として国内外のプロジェクトに従事。2017年からは研究職と並行し「トルコギキョウ」栽培を開始。（読谷村在住）

農業と環境が繋がるデザインへ。

それは資源を巡る紛争から始まった。

「沖縄の過去、現在、未来の出来事を米国側は実際どう考えているのか。それが米国の短大で学んだきっかけです」。穏やかな表情だが開口一番、伊波克典さんは自信をみなぎらせてこう言いきった。「資源を巡る紛争を防ぎ世界がバランスよく動くためには、沖縄も持続可能な発展をしていくことが大事です」。

そこで出会ったのが『エコロジカル・フットプリント（エコフット）』。エコフットとは私たちの消費行動を支えるための生態系サービスの総量を数値化する方法です。それを『バイオキャパシティ（地球が1年間に生み出す生態系のサービスの供給量）』と比べることで地域の持続可能性を計るのが私の仕事です」。

人と人が近く村民の生活を全部見渡せる。

「読谷村の魅力は、人と人が近いということ。そして村民の生活を見渡せることです」。

しかし、確かにひとの繋がりはありますが、点と点が分

断しているのではないかと。それを繋げることができるのは、じつは村外からの人のような気がします。点と点をつなぐ専門家が必要ですね」。鋭い意見を出す伊波さんだ。

環境と農業を“新しいデザイン”でつなげる。

「デザインは社会や価値観も変えます。例えば、読谷村は“影”が少ない。植樹でつくった“影”をデザインすることで読谷村に対する人々の意識も変えられます。また村の地形と季節ごとの風の流れを意識した立体感のあるランドデザインも面白いのでは」。さらに話をすすめる伊波さん。「帰国当初、自分が信じていた研究のエコフットを農家の方に伝えきれませんでした。農業と環境問題を分けていたんですね。農業はバイオキャパシティを支えています。将来的には、エコフットと農業を物語性のある“新しいデザイン”でつなげ、発信していきたいですね」。伊波さんは現在、自らも“トルコギキョウ”の栽培にも取り組み、農業とも直に関わっている。



“影”をデザインしたむらづくりを



やさしい雰囲気のとるこぎきょうの花々



鈴木 理美

公益財団法人 沖縄こどもの国
こども未来課 係長

チュ ヒトウ ヌ マナ スダ
ちむ清らさあるひとの学び育ち(夢を育み生涯輝けるひとづくり)



プロフィール

1973年読谷村字楚辺生まれ。古堅小学校卒業。古堅中学校卒業。読谷高校卒業。沖縄キリスト教短期大学(保育科)卒業。1993-1995年 沖縄キリスト教短期大学(事務局企画課)勤務。1995-1997年 The Little Skool-House international(シンガポール)勤務。1999-2000年 京都市立南保育所勤務。2000-2004年 北谷町立第二保育所勤務。2004年-現在 沖縄こどもの国(ワンダーミュージアム)勤務。(読谷村在住)

”日本一幸福度の高い場所”へ。

“親子”が感動できる場。

「現在、こどもの国のワンダーミュージアムで、子どもたちに遊びの中の学びというものを提供しています」。子どもという言葉がイキイキと飛び出す鈴木さん。「大切にしている視点は“親子”。生涯学習施設として、学校でもない、そして家庭でもないという位置づけで、子どもたちがのびのび遊ぶ場所。そこに親も参加して一緒に感動する。その“場”づくりに取り組んでいます」。

保育所、幼稚園、京都やシンガポールでも子どもに関わる仕事を経験。今は“親子の新しい遊び場”の可能性をさらに目指して、仕事を続けているという。子育てのことを話すと目を輝かせる鈴木さんだ。

“知産地笑”の子育て支援。

「読谷村の魅力はなんと言っても“知産地笑”ですね。農業で村を活性化するというのがすごくいい。このキーワードから“発信”できれば、読谷村だからこその“子育て支援”ができると感じます」。

農業に関わったことのある子どもは、いろんな発達をしていきます。そんな基礎体力をもった子どもたちに、読谷村からさまざまな発信をしてもらいたい」。鈴木さんは、読谷村の地域性を活かした子育ての場づくりを考える。

次代を担う子どもたちの“場”と“環境”を。

「読谷村には“ヨミタン大学”や“ノーベル基金”などのユニークな取り組みがあります。“やる気のある子ども”を育むために、そういった場や仕組みに積極的に関わりたいと思えるような土壌をつくっていくことが大事です」。鈴木さんは力強く話した。

「子どもの関心や興味にマッチングした場と環境があれば学校とは違う所で交友を深め学びあう。日本一人口の多い村が“日本一幸福度の高い場所”になるために、そのような場所が広がってほしいですね」。



島袋 孝子

デイサービス活きる家 代表者

作業療法士・認知症ケア専門士
日本認知症予防学会会員

ウマンチュ ワラ フクティガシジュウヌ シマ
御真人や笑い誇て健康の村(未来が輝くハツラツむらづくり)



プロフィール

1976年読谷村字大湾生まれ。古堅南小学校卒業。興南中学校中退、古堅中学校卒業。読谷高校卒業。沖縄大学法経学部法学科卒業。結婚・出産後、沖縄リハビリテーション福祉学院作業療法学科入学・卒業。いずみ病院 認知症治療棟勤務時代に株式会社一期一会を設立。2012年5月デイサービス活きる家開所。座右の銘「一生勉強一生青春」。尊敬する人「父」。(読谷村在住)

認知症の方の力になりたい。

高齢者にいい場所をつくりたい。

「資格取得後、高齢者関連のある病院に勤務しました。徐々に病棟の中での患者さんの限られた生活、自分の役割の見えづらさ等にジレンマを抱えてきたことがきっかけで“高齢者にとっていい時間を過ごせる場所”を作りたいとデイサービスを立ち上げたのです」。やさしい笑顔で、高齢者への眼差しを向ける島袋さん。

「利用者の中には、認知症をかかえる方もいらっしゃいます。当事者の気持ちを少しでも理解し関わらせていただくという思いはスタッフ共有の思いです。音楽療法があることも特長の一つです。回想法の一つであり精神的な安定やコミュニケーションの広がりもみられるのです。また、作詞：利用者みなさん 作曲：音楽療法士で『活きる家のうた』というオリジナルソングも作りました。興味のある方はぜひご連絡ください(笑)」。

島袋さんが朗らかに笑った。

村民とのつながりを身近に感じて。

「読谷村の魅力は、人と人との繋がりでですね。みんなの力が結集しやすい環境ですよ。企業と行政との連携もい

いですね。商工会女性部では、若い部員が徐々に増えています。私は商工会の会員ですが、福祉なのに商工業？というもどかしさも確かにあります。そこで“ふるさと納税”を福祉と商工とを、ぜひ関連できればと考えています。納税では福祉は商品やモノではないが、そんなふうに“ふるさと納税”を考えたいですね」。

発想豊かなアイデアが次々と飛び出す島袋さんだ。

これからの読谷村。

「人と人を繋ぐ農業でいえば、ご近所さんが利用者のために無償で畑を提供してくれています。畑では季節の野菜を収穫し、運動しながらみんなで楽しんでいます。それから、村はいろんな人材を村外から呼び込んでいます。その良さを、なんとか“福祉”に繋げればいいですね。農業以外でも、施設利用者と商業や工業分野との繋がりを考えていきたいです。地域みんなが、施設を支えるというそんな村の環境をつくっていききたいです」。読谷村だからこその可能性に、島袋さんが顔を輝かせた。



ワンダーミュージアムでは運営全体を統括



休日は畑を楽しむ



コグニサイズ(頭を使った課題+体を使った課題を同時に行う)で心身機能を高める



利用者とじゃがいもの収穫を楽しむ



知花 竜

小菊栽培農家 代表者

“農業の原点”を忘れないこと。

売上げのための仕事か。

「最初は親父の手伝いをしていました。キク栽培が好きでもなかったですね。むしろ嫌だった(笑)。そのあと料理人、花屋、農業と続けてきました。農業をやりながら花屋ができればいいというのが、この道に入ったきっかけです」。父の手伝いは2年間。独立して13年目。農園を広げたり機械化を進めたのはそれからだ。

「もちろん、売上げも実績も上がりました。しかし休みもなかった。従業員にも無理をさせた。そこから疑問をもったんです。売上げのための仕事かってね。それからは従業員のことを考えて経営することにしました。売り上げも考えながらとなると大変ですがね」。精悍な顔と体格のいい知花竜さんだが、やさしい人柄が伺える。

“農業の原点”を考える。

「西部連道(読谷村の土地改良地区の一画)の真四角に整備された畑は使いやすいですね。読谷は水もいいし土もいい」。読谷で農業をすることに太鼓判を押す知花さん。「い



プロフィール

1977年読谷村波平生まれ。読谷小学校卒業。読谷中学校卒業。読谷高校卒業。1997年3月 大阪あべの辻調理師専門学校卒業。1999年6月 花の二葉屋入社。2001年6月 日比谷花壇入社(東京)2003年6月 花時入社。2007年6月 新規就農(小菊栽培)2010年4月 認定農業者。(読谷村在住)

ま花キは60代から80代の先輩たちから受け継がれています。でも新しい方法を編み出していかなければなりません。若手リーダーの知花さんの言葉に真剣さがみなぎる。

「今は第6次産業という複合型もあります。でもそれよりも農業は自然に恩恵を受けていますから、まず自然に還元する方法を考えたいです。例えば赤土流出の問題ですね。自然と向きあうことが“農業の原点”だと思います」。“農業の原点”に真摯に立ち向かう知花さんだ。

一番は担い手の問題ですね。

「もちろん村民だけで農地を活用していくことが理想です。しかし村外、県外からも受け入れることもこれからは必要です。積極的な技術指導、研修も課題です。今後は“食”の時代。その対応も必要。でも一番に大事なことは、担い手。いろんな所から人材を呼び込みたい。農業には大変なことも多いですが、そこで楽しさを生み出すことで“魅力的な農業”につながると思います」。



小菊を抱えながら将来の抱負を語る



多和田 友

大添自治会 自治会長

ここはみんなが輝ける場所。

始まりは地域住民の居場所づくり。

「この公民館は、地域の人たちの“居場所づくり”がスタートです。それで沢山の人が来るようになった。これが広いネットワークに繋がったんです。ここで学校にはない“社会勉強”によって、大人ともコミュニケーションがとれる子どもになってほしい」。多和田さんが将来の担い手づくりも考えた地域活動を熱く語る。

「子どもたちがいろんな大人たち、オジーやオバーたちとふれあいながら地域の行事にも関わってもらうんです。自己表現のできる子になってほしいですね」。公民館の役割から、子どもたちの将来も見据える多和田さんだ。

活発なコミュニティ活動。

大添地区のコミュニティ活動は活発だ。まず学童クラブでも児童館でもない“わんぱく広場”。放課後の子どもたちを公民館で積極的に受け入れている。この活動は各地から注目され、九州地区の公民館研究大会でも事例発表も行った。



区民手づくりで建てられた木造の大添公民館



プロフィール

1968年 久米島生まれ。幼少を過ごし、小学校4年生の時に読谷村に家族で居住。古堅小学校、古堅中学校、中部工業(現未来工科)卒業後、本土へ就職し、6年程で沖縄に戻り、海の仕事、サービス業など経験し2011年、障害者支援を機に、公民館へ入り、2015年4月から大添自治会長に就任し現在に至る。明るく・楽しく・笑顔溢れる地域、安住の地を目指し活動を継続。(読谷村在住)

地域緑化中心の美化活動や福祉活動も盛ん。県内外からの出身者も積極的に参加している。「来るものは拒まずですよ。ちなみに木造の公民館も区民たちの手づくり。みんな快く協力してくれますよ」。地域ボランティアの「見守り隊」も朝の声かけ運動でコミュニティを支える。「自治会は入りやすい、行きやすい、活動しやすいへの動線づくりが大事です」。楽しめる自治会を目指す多和田さん。

読谷村にしかできない“ひとつの演舞”を。

「各地域の青年会が集まって1つの演舞をする祭りなどの“輝ける場所”があるといい。全体で大きな輪になれば地域全体が読谷に誇りを持ち、小さな地区も活性化していく。また“わんぱく広場”のような取り組みが広がっていけば、その子供たちが村の行事に参加して大きくなっていく。それが読谷村にしかできない祭りに繋がると思います」。多和田さんの発想と夢は自治会から読谷村全体に広がる。



わんぱく広場(クリスマス会)



昭和五〇年に読谷村文化まつりとしてスタートした「読谷まつり」は令和元年度に第四五回を迎えました。発掘・継承・創造・自立を指標に、全村民が結集してむらづくりの心意気を示す村の一大イベント。老いも若きも、それぞれの立場から平和の祈りを込め、演目に取り組みます。この日は一人ひとりが主人公となり、読谷のエネルギーが炎がたちのぼります。

読谷まつり

うた、おど、謡え、踊れ、語れ。今、伝統と平和を愛する読谷が未来への発信地!!



地域文化の創造発展に寄与する村民総参加による「読谷まつり」。そこに暮らす人々の心意気、たくましさが一挙に沸き、燃え上がるまつりです。私たちの心に生きる三線歌謡の始祖「赤犬子」・大交易時代の先駆者「泰期」。先人たちの夢とロマンが時を越えて蘇ります。伝統文化が咲き揃うまつりでお互いの日々の健闘を讃え合い、未来へ共に発進。継承され、自律していく力。そこに私たち読谷のむらづくりが見えます。

勢いあるユンタンザのイベント！



「Okinawan Dream 100万人の平和コンサート in よみたん」

PEACE & Piece 『平和のピースとパズルのピース』

“ご来場時には「優しさのカケラ」をあなたのポケットに忍ばせて、ご参加ください。そしてそのカケラを、会場で会場で」出逢う多くの方々へおすわけしてください。みんなで優しさのパズルのピース (Piece) をつなぐことで、必ず平和 (Peace) な世界につながります。” この呼びかけのように、「1人ひとりのやさしさのPieceをしきつめて、Peaceなよみたん、そしておきなわをつくり、この想いを日本全国、世界に広げていこう」という壮大なコンセプトのもと、県内外多くのアーティストの賛同によりコンサートを開催。毎年多くの来場客が訪れる、一大イベントへと成長しています。感動と喜びが優しさを生み、その優しさで会場中がつながり合い、そのつながりは時間と場所を飛び越えて、よみたんから全国各地、世界中へと広がっていく。音楽の持つチカラ、平和創造への可能性を大いに感じさせる、そんな素敵なコンサートは、読谷村の新たな文化の芽生えとなって引き継がれていきます。



琉球ランタンフェスティバル

読谷村の冬の夜を彩る長期イベント。琉球王朝時代の町並みが再現された「むら咲むら」が多くのランタンで埋め尽くされます。



読谷村青年エイサーまつり

夏の風物詩、村内の青年会が一同に会し、各地域で受け継がれてきた伝統芸能エイサーを熱演します。



ゆんたんざエイサー天国

高志保大通りの車両の通行を止めて行われるエイサーイベント。通りを踊りながら練り歩く大規模な「道じゅねー」が楽しめます。



読谷やちむん市

毎年約2万人の来場者が訪れる県内最大級の陶器市。通常の2割引きの値段でヤチムンを購入できます。



うみんちゅみなとピクニック

村漁業協同組合の青壮年部により毎月第3日曜日に都屋漁港で開催。高校生以下は無料でうみんちゅの手作りごはんが食べられるほか、マグロの解体ショーや、ウミガメの放流、魚の引き上げ体験なども楽しめます。



おさかなフェスタ

都屋漁港を会場に大型定置網漁見学や魚の掴み取り、マグロ解体ショーなどたくさんのイベントが行われます。当日は村内外から多くの来場者で賑わいます。



読谷村ハーリー大会

ハーリーは豊漁と安全祈願を目的に行われる伝統行事で、漁業の盛んな読谷村でも盛大に行われています。鐘の音にあわせて漕ぎ手たちが声を掛け合いながら進むハーリーに、会場からは指笛や熱い声援が送られます。



山芋スープ

山芋スープとは、一株から収穫される山芋の総重量を競うもので、毎年12月ごろには、村内各地でスープが行われ読谷村の冬の風物詩となっています。

各自治会でも、個性豊かなイベントが行われています。



渡慶次カタノー角力大会

地域の力自慢が伝統ある沖縄角力(おきなわずもう)で競います。

座喜味城通りふれあい祭り

座喜味城跡へ続く通りで多くの屋台が立ち並ぶ、城下町の雰囲気が楽しめる祭りです。



大木スイカまつり

大木地区で多く栽培されている「黒玉スイカ」の販売、スイカ割り体験などが行われます。

読谷のウツイムチ 読谷村スポーツコンベンション

読谷村では、平成30年に策定された『読谷村ゆたさむらビジョン』の重点施策を踏まえ、「スポーツキャンプ地 読谷村」が新たなブランドとなるよう国内外に幅広くPRするとともにキャンプ誘致ならびに誘客を通して観光振興や地域活性化に取り組んでいます。

近年では野球やサッカーをはじめ、ソフトボールやラグビー、陸上競技といった多様な種目のキャンプが読谷村で行われています。その理由として、練習施設の充実はもちろんのこと、練習場と近距離にある宿泊施設の利便さ、練習のない日には村内の自然や観光施設でリフレッシュできるなど、キャンプに集中しやすい環境が整っていることが要因となっています。また、受け入れを行うにあたり、行政をはじめ、商工会や観光協会、各種スポーツ団体が構成された「読谷村スポーツコンベンション受入協力会」を中心とした「よみたん流おもてなし」も高い評価を受けています。

スポーツコンベンションが地域へもたらす効果は、経済、施設整備（インフラ）のみならず、読谷村の魅力が県内外、国外に発信されることや、トップ選手が行うスポーツ教室や地域交流を通して、競技力向上や人材育成につながることも期待されます。



ZANPAプレミアム残波岬ボールパーク



オキハム読谷平和の森球場



給食交流



学校訪問



キャンプイン歓迎セレモニー



キャンプ地に咲くコスモス

読谷村陸上競技場

中日ドラゴンズ(野球)

プロ野球春季キャンプにおいて、本村は長年にわたり、中日ドラゴンズ2軍キャンプを受け入れています。毎年キャンプ時期の2月は多くのファンや関係者で球場を中心に賑わいをみせ、プロ野球選手と子供たちが触れ合える「給食交流」や「野球教室」を企画し、チームと村民の地域交流を図っています。



サッカー/ラグビー



本村は芝フィールド（ZANPAプレミアム残波岬ボールパーク、読谷村陸上競技場）が2面あるため、複数のチームを同時期に受け入れることが可能となっています。サッカーにおいてもJリーグのサガン鳥栖やヴィッセル神戸、ラグビートップリーグ所属チームも多く受け入れています。2019年開催のラグビーワールドカップ2019年日本大会では公認チームキャンプ地としてアメリカ代表を受け入れ、2020年東京オリンピックでは7人制ラグビーニュージーランド代表の事前キャンプ地として受け入れを予定しています。



ソフトボール

女子ソフトボール日本代表や日本女子ソフトボールリーグ所属チームなどがキャンプを行います。オキハム読谷平和の森球場や読谷村運動広場などで練習を行い、村内中学校のソフトボール部向けに教室を行うなど、地域交流や競技力向上にも寄与しています。



陸上競技

読谷村陸上競技場ではパラ陸上選手や学生陸上部などがキャンプを行い、日本代表など世界トップレベルのパラ陸上選手もキャンプを行っています。



「黄金の花」咲くむらづくり

読谷補助飛行場は、昭和 18 年、旧日本軍が沖縄北飛行場として用地を接収し、終戦後は米軍が読谷補助飛行場として使用してきました。その間、パラシュート降下訓練等による事故が相次ぎ、米軍と村民との衝突が幾度となく起こりました。一方で、旧日本軍による飛行場建設に起因する旧地主の所有権問題など、飛行場用地に係る戦後処理等の問題解決が求められていました。平成 8 年、SACO の最終報告で、平成 12 年度を目処に返還が合意されていましたが、楚辺通信所の移設作業の遅れにより、返還が先延ばしとなっていました。平成 18 年初旬には、楚辺通信所の代替施設が完成し、

運用も一部開始したことを受け、平成18年5月18日の日米合同委員会において返還が決定され、平成18年12月31日の全面返還となりました。読谷村は、返還された読谷飛行場内の国有地と嘉手納弾薬庫内の村有地の等価交換を行いました。村有地として取得することで、黙認耕作等様々な問題の解決を図り、跡地利用の円滑な実現を目指していきます。取得した村有地は、文化・スポーツ・行政機能の集積した、むらづくりの拠点となる地区として整備を行っていきます。また、旧地主関係者らでつくる農業生産法人へ農地として貸し付けを行っています。

- ① 運動広場（昭和53年）
- ② 総合福祉センター（昭和55年）
- ③ 伝統工芸センター（昭和55年）
- ④ オキハム読谷平和の森球場（昭和62年）
- ⑤ 多目的広場（昭和62年）
- ⑥ 読谷村役場（平成9年）
- ⑦ 文化センター（平成11年）
- ⑧ 健康増進センター（平成20年）
- ⑨ 読谷中学校（平成22年）
- ⑩ 陸上競技場（平成23年）
- ⑪ 地域振興センター（平成28年）
- ⑫ ユンタンザパークゴルフ場（平成31年）
- ⑬ （仮称）川回る広場（令和2年完成予定）





平和に勝る福祉なし

読谷村民は持てる英知と情熱を尽くして、平和の郷読谷の建設に取り組んでいます。それは、「軍隊は国民の生命財産を守り得るものではなく、国民一人ひとりにあらゆる意味での犠牲を強いる強権として存在するものである」という、沖縄戦で多大な犠牲の上に学びとった教訓を村政の中に生かし、2度と戦争の惨禍が起こらない社会の構築が目的です。

地方自治行政は、その地域住民の生命財産を守り、生命が脅かされない生活環境の確保が第一義の目的です。すなわち、「平和に勝る福祉なし」ということでもあります。戦争を起こすのも人間ですが、同時に戦争を拒否し、平和な社会を築き得るのもまた人間なのです。



読谷海岸のリーフ内を進軍する海兵隊員。主力部隊はすでに南下しており、無血上陸となった。(4月1日)



米軍上陸の地碑



米軍上陸作戦でイエロービーチと呼ばれた旧渡具知港。前線への補給物資も次々上陸船艇から陸揚げされた。今はこの旧渡具知港はない。

チビチリガマから世界へ平和の祈りを

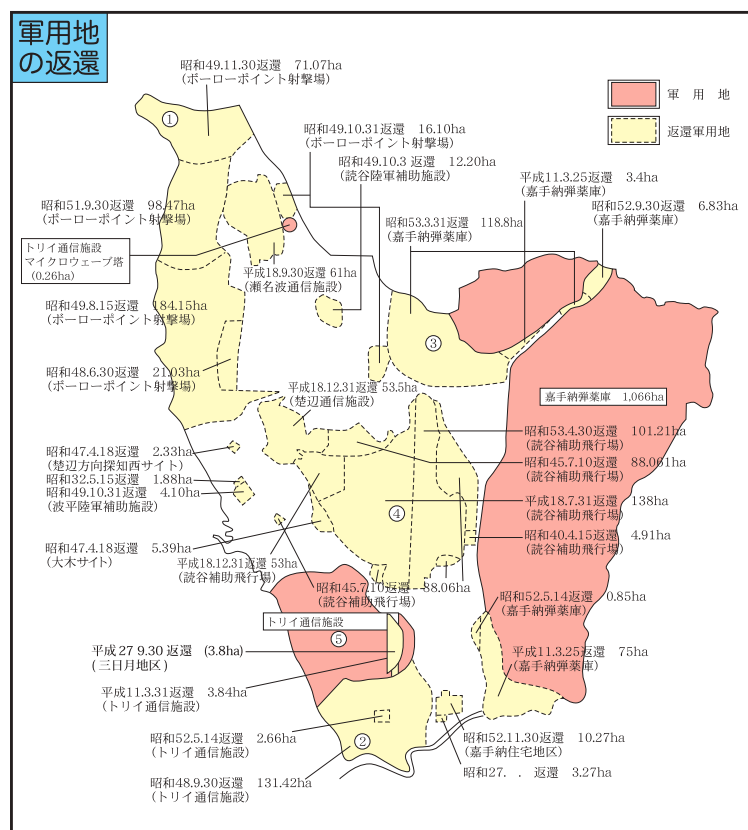
チピチリカマは、1945年4月2日、アメリカ兵の残酷な仕打ちを恐れて「集団自決」が行われた場所です。犠牲者の死を悼み、悲惨な戦争が二度と起こらぬよう、永遠の平和を心の底から祈り、この地に「世代を結ぶ平和の像」を建立しました。



黄金の花咲くむらづくりの拠点

読谷補助飛行場は戦時下の昭和18年、旧日本軍によって強制的に接収され、その後も米軍基地として使用、その間パラシュート降下演習等が実施され、人命を奪い、家屋を破壊し、農作物を踏み荒らし、児童生徒に恐怖を与える事件事故が多発しました。

その後、村民総ぐるみでの運動の時代を経て、平成18年に全面返還されました。私たち村民は、この地域を希望に満ちた21世紀のむらづくりの拠点として、村民センター地区、先進農業集団地区などの整備を推進しています。未来への展望をこの地に求めて、一步一步前進していきます。



軍用地 跡地 利用

軍用地が返還された読谷補助飛行場跡地は土地改良事業や公共施設が建設されました。また、大湾東地区や大木地区では、土地区画整理事業が行われ、新たなむらづくりが進みつつあります。



広大な農地

YOMITAN CHUBU

読谷中部

OWAN 大灣

大湾



大型ビジョン



商業施設が並ぶ国道58号沿い

大木 **00K**



現在の交差点



読谷のむらづくりを支える礎。

24 の自治会

読谷村のむらづくりは、地域自治会の活動が基盤となり、村の諸事業の担い手、各地域の伝統行事や芸能を継承・発展させ今日に至っております。

これからも、各自治会をむらづくりの礎として「いちゅいゆんたんざ（勢いのある読谷）」を目指していきます。





※ QRコードを読み取ると、各自治会のより詳しい概要（平成26年度村勢要覧）がご覧いただけます。

渡慶次

とけし

渡慶次 180
☎098-958-4922



渡慶次公民館



農林水産祭 天皇杯受賞記念碑



伝統芸能「渡慶次獅子舞クラブ」

「おもろさうし」に「とけす」と表記される古くからの集落。ゆいまーる（協調・和衷・助け合い）精神のもと、農業生産、伝統芸能、環境美化活動において、老若男女が一体となったむらづくりを展開していることが認められ、2005年、沖縄県で初めてとなる農林水産省による天皇杯を受賞した。

儀間

ぎま

長浜 1409
☎098-958-3002



儀間公民館



ビニールハウス



復活した伝統芸能「フェーヌシマ」

渡慶次から分村した集落。戦後、集落地が米軍により接収されたため、長浜地番に建設された公民館の周辺を中心に居住している。村内でも農業への取り組みが活発な地域で、土地改良事業によって大規模な基盤整備が行われている。昭和初期まで演じられていた「南ヌ島」が60年ぶりに復活を遂げるなど、各団体の芸能の継承、後継者育成にも力を入れている。



※ QRコードを読み取ると、各自治会のより詳しい概要（平成26年度村勢要覧）がご覧いただけます。

長浜

ながはま

長浜 14
☎098-958-4246



長浜公民館



長浜ダム



長浜棒

長浜川河口に立地した集落。天然の良港があったといわれており、読谷山花織、南蜜饯の技法、民俗芸能のチクタルメー（作田米）やフェーヌシマ（南ヌ島）がこの港から伝わったといわれる。1995年に沖縄県最大の農業用ダム「長浜ダム」が完成し、長浜川土地改良区等の圃場へ農業用水を供給している。

楚辺

そへ

楚辺 1928-1
☎098-956-2326



楚辺公民館



アカヌクー（赤犬子宮）



ユーバンタ公園

戦後、米軍基地トリイステーションとして接収され、北西側の現在地に集団移転を余儀なくされた。村内初の公共下水道の整備により居住環境の改善が図られている。令和2年には、待ち望んでいたユーバンタ公園が完成した。三線の始祖であるアカインコ（赤犬子）終焉の地とされるアカヌクー（赤犬子宮）では、旧暦9月20日にアカヌクー祭が行われている。

宇座

うざ

長浜 1840-2
☎098-958-2231



宇座公民館



残波岬



泰期像（残波岬公園）

残波岬を有し、広大な残波岬公園が整備されるとともに、大規模な土地改良事業が実施されている。中山王察度の弟として、初めて中国（明）に渡り、琉球の大交易時代の先駆けとなった泰期は宇座の出身と言われており、彼の偉業をテーマにした創作「進貢船」が読谷まつりの中で壮に演じられている。

瀬名波

せなは

瀬名波 138
☎098-958-2594



瀬名波公民館



名誉村民
屋良朝苗氏
1902年
12月13日生
1997年
2月14日没



伏山敵討

戦後初の沖縄県知事で読谷村名誉村民の屋良朝苗氏の出身地。鏡地原一帯は、海を見晴らす景勝地で、沖縄海岸国定公園に指定されている。村内でも特に古い芸能の里で、今でも数多くの伝統芸能が伝えられている。また、瀬名波独特の所作や演出があり、他地域の芸能と違った特色を持っている。

古堅

ふるけん

古堅 75-3
☎098-956-2238



古堅公民館



浜千鳥



古堅第二公園

沖縄戦中に米軍の野戦病院が置かれ、戦後は嘉手納航空隊の家族住宅用地（嘉手納住宅地区）として接収された。同地区は復帰後の1977年に返還され、1982年から居住が始まった。また、大木・水釜線・比謝川大橋が整備され、嘉手納町市街地と直結し、南の玄関口として現在住宅立地が進んでいる。1999年には待望の公民館が完成し、新たな拠点として地域コミュニティづくりが行われている。

渡具知

とぐち

渡具知 246-2
☎098-956-2240



渡具知公民館



渡具知ビーチ



泊城公園

比謝川河口の北岸台地上にあり、沖縄戦の米軍上陸地点となった。泊城から比謝川沿いは比謝川沿岸整備計画の一環として、泊城公園が整備され、多くの家族連れが訪れている。スイカ、メロン、花卉など、集約型の農業が発達し、1995年にはゆたかなむらづくり部門で農林水産大臣賞を受賞している。



※ QRコードを読み取ると、各自治会のより詳しい概要（平成26年度村勢要覧）がご覧いただけます。

大木

おおき

大木 294
☎098-956-2020



大木公民館



名誉村民
比嘉秀平氏
1901年6月7日生
1956年10月25日没



読谷道路

1935年にできた比較的新しい集落。集落形態は散村だったが、ほかの地域からの転入が増え、現在の密集した居住地となっている。「読谷道路」の整備によって読谷村の新しい玄関口となることから、更なる発展が期待される。大木出身者に沖縄の戦後復興に貢献した琉球政府初代行政主席で読谷村名誉村民の比嘉秀平氏がいる。

比謝

ひじや

比謝 26
☎098-956-2234



比謝公民館



「佐久川イモ発祥の地」碑とお宮



比謝エイサー

比謝の語源は“東”の意。読谷村の東側にあることからこの地名が付いたといわれている。比謝出身の佐久川清助が選抜育種した「佐久川いも」が明治末期から、昭和にかけて主要品種として沖縄の農業発展に貢献した。転入者の居住が多く、県営比謝団地をはじめとした住宅地が広がっており、南の玄関口として更なる発展が期待される。



※ QRコードを読み取ると、各自治会のより詳しい概要（平成26年度村勢要覧）がご覧いただけます。

長田

ながた

大木 313-9
☎098-956-6550



長田公民館



長田川



長田盆踊りのタベ

廃藩置県後、山間地に入植した屋取の集落。米、養蚕、茶の栽培が盛んだった。また長田川の豊富な水を利用して水車が整備され、製糖、精米も行われていた。戦後は地域全域が米軍基地嘉手納弾薬庫として接収され、現在地の大木及びその周辺への移住を余儀なくされた。少人数であるが故、地域活動は皆が家族的な雰囲気で行っており、老いも若きも各種行事に積極的に参加している。

牧原

まきはる

比謝 315-4
☎098-956-2328



牧原公民館



チチェン御嶽



牧原エイサー

牧原はかつての王府時代の牧跡（まき＝牧場）に入植してできた集落。1928年には県下で初めて護概施設として一万坪の貯水池が造られ、トロツコ軌道も整備されるなど、農業の先進地として活況を呈した。戦後は地域全体が米軍基地嘉手納弾薬庫として接収されたため、現在地の伊良皆及び比謝あたりに移り住んでいる。周辺の住宅地化が進むにつれ、他地域からの転入者も増加している。

大湾

おおわん

大湾 425
☎098-956-2233



大湾公民館



大湾東地区の開発地域



「和陸」の旗頭を先頭に旗スガシー

国道沿いは市街地が進み、米軍基地にも近いことから外国人住宅などが建ち、密集した居住地となっている。比謝川・長田川に近く、緑豊かな地域であり、潤いある住環境づくりにむけて地域住民が積極的に緑化・美化運動に参加している。

比謝砦

ひじやし

比謝砦 3
☎098-957-2172



比謝砦公民館



吉屋チルリーの碑



比謝砦碑文

各地からの移入者によって街道沿いに開かれた集落。1914年に大湾から独立発足した。戦前は嘉手納とつながる港町、商業地として大いに栄えたが、戦後は米軍基地接収や道路拡張のため旧地に戻ることはできず、分散居住を余儀なくされた。住民の団結により1969年に公民館を建設。活動拠点として現在もゆいまーる共生事業や各種行事を行っている。

大添

おおそえ

楚辺 1279-31
☎098-956-9093



大添公民館



わんぱく広場



防犯パトロール

民間の住宅団地が集中して開発されたことに伴い、新しい住宅地に大添として誕生した。歴史は浅いが、結束力があり、開発地区におけるコミュニティづくりの先進地区として注目されている。住民主体のまちづくりが行われており、住民の手作りで建てられた公民館はその象徴となっている。

横田

よこた

座喜味 2713-115
☎098-958-7111



横田集会所



横田がんじゅう会



横田東入口の花壇

振興集宅地自治会が合併し誕生。読谷村で最も新しい自治会。もともとの読谷村出身者は少なく、全国各地の移住者で構成されている。「自分たちの地域は自分たちで創る」を合言葉にコミュニケーションを大切にする住みよい地域づくりが取り組まれている。

行政 議会

自治の郷・平和の郷 を築くむらづくり

読谷村では、多様化する村民ニーズに対応するため、住民自治の原点に立ち、住民対話による、村民とともに歩むむらづくりを進めています。

庁内では毎週、庁議と部課長会を開催し、さらに月に2回行政事務連絡会議も開かれ、行政執行の円滑化を図っています。また、毎月広報よみたんを発行し、村ホームページや大型ディスプレイ、FMよみたん等で行政情報や地域話題を提供しています。村長以下約240人余の職員が村民福祉の向上を目指し、潤いのあるむらづくりを推進しています。



読谷村役場



読谷村文化センター

行政に対する姿勢

村民の平和で幸せな暮らしを願い、読谷村が読谷村らしくあるために、これまでのむらづくりの基本としてきた理念である日本国憲法の「平和主義」「主権在民」「基本的人権の尊重」「地方自治の本旨」を遵守し村政の運営にあたります。

基本構想「読谷村ゆたさむらビジョン」(2018年6月)の基本理念に基づき、「ゆたさある風水マサチムグクルサツフクハナドゥムアワ優る肝心咲き誇る文化ど想い合ち」を掲げて取り組んでいます。



副村長 仲宗根盛和
読谷村長 石嶺傳貴
教育長 知花 優



憲法第9条の碑



村民の声を反映させる議会

村議会は定員19名で構成される村政の重要な議決機関です。年4回の定例会(3、6、9、12月)を開くほか、必要に応じて臨時議会が開かれます。議会は予算案などの各種議案の審議のほか、村民からの請願・陳情などを専門的な立場から審議し、村政に具体的に反映させます。

これらの議会活動のほかに総務委員会、建設経済委員会、文教厚生委員会の3つの常任委員会が置かれ、さらに必要に応じて特別委員会を設けて独自の調査活動を行っています。現在の議員は、2018年9月に改選され、村政の選良として日夜奮闘しています。



読谷村議会基本条例前文(2009年制定)

読谷村議会は、二元代表制の下、村民の代表機関として、住民自治及び団体自治の原則に則り、民主主義の発展、村民福祉の向上及び平和社会の実現に向け、村長等の執行機関との持続的な緊張を保持し、独立・対等の立場において、政策決定並びに事務の執行について監視及び評価を行うとともに、政策立案及び政策提言を行うものである。

このような使命を達成するために闊達な議論をとおして、論点・争点を広く村民に公開することにより、公正性と透明

性を確保し、この条例に定める議会としての独自の議会運営を実践することにより、村民の負託にこたえ、信頼されることを決意し、この条例を制定する。

この条例は、村民に身近な議会として、議会の基本理念、議員の責務、活動原則等を定め、地方自治の本旨に基づく村民の負託に的確にこたえ、もって村民の福祉の向上及び豊かな村づくりの実現と、村政の発展に寄与することを目的とする。

村議会議員



伊波 篤 上地 榮 與那覇 徳雄 仲真 朝雄 大城 行治 山内 政徳 上地 利枝子 當間 良史 津波古 菊江 城間 勇



山城 正輝 松田 昌邦 長濱 宗則 比嘉 幸雄 神谷 嘉栄 松田 正彦 伊佐 真武 城間 真弓 國吉 雅和

統計資料編

位置及び面積

読谷村は、沖縄本島中部の西方にあって、那覇から 28km の位置にあり、西は東シナ海に面し、南は嘉手納町、東は沖縄市、北は恩納村に隣接しています。村域は東支那海につき出た半島状をなしている。総面積は、35.28 km²である。県下では、金武町(37.84 km²)について 18 番目、中部地区では、沖縄市(49.72 km²)について 3 番目となっている。

▼ 読谷村の位置

	経 緯 度	地 名
極 東	127° 47' 09"	読谷村、恩納村、沖縄市の境界
極 西	127° 42' 40"	残 波 岬
極 南	26° 21' 40"	渡具知港地先
極 北	26° 26' 31"	残 波 岬



▼ 気象概況の推移

年次	降水量 (mm) 【読谷】			気温 (℃)【那覇】			平均湿度(%)	日照時間(h)	風速 (m/s) 【那覇】	
	総量	日最大	降水日数	平均	最高	最低	【那覇】	【那覇】	平均	最大
平成20年	1,285	61	113	23.4	33.8	10.7	71	1,851.1	4.9	12.9
21	1,840	192	109	23.4	34.6	9.3	72	1,876.6	5.3	19.4
22	2,796	173	156	23.1	33.2	9.1	74	1,502.7	5.3	21.2
23	1,765	179	123	22.9	32.9	8.7	75	1,602.3	5.4	35.0
24	2,496	182	134	23.0	33.3	11.6	74	1,538.9	5.5	41.1
25	1,415	117	125	23.3	34.8	10.3	73	1,809.0	5.3	22.0
26	2,538	298	134	23.1	33.9	10.6	73	1,760.2	5.3	33.1
27	1,645	160	100	23.6	33.8	9.6	73	1,813.8	5.2	27.0
28	1,674	78	137	24.1	33.9	6.1	74	1,757.2	5.1	20.7
29	1,800	119	116	23.6	35.1	10.7	71	1,646.0	5.0	22.4

▼ 気象概要（平成 29 年）

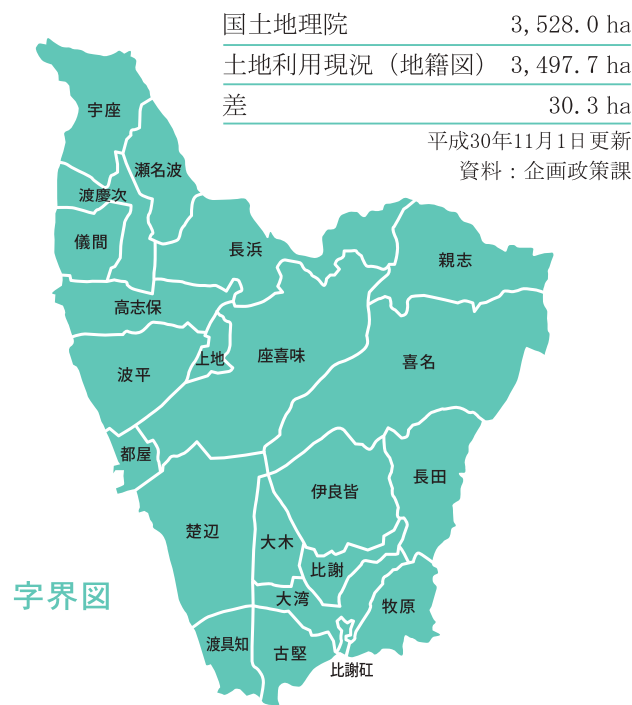
月	降水量 (mm)【読谷】			気温(℃)【那覇】			平均湿度(%) 【那覇】	日照時間(h) 【那覇】	風速 (m/s) 【那覇】	
	総量	日最大	降水日数	平均	最高	最低			平均	最大
1月	102.5	47.5	11.0	18.4	25.0	12.3	64.0	77.0	4.7	11.9
2月	107.0	53.5	8.0	17.1	24.3	10.7	63.0	79.9	5.2	13.4
3月	73.5	20.5	11.0	18.3	25.0	11.8	67.0	102.4	5.0	11.4
4月	78.5	36.0	5.0	21.6	27.1	14.8	71.0	128.6	5.2	11.7
5月	201.5	107.0	13.0	24.2	29.7	18.7	78.0	112.1	4.5	11.7
6月	508.5	114.0	16.0	26.6	33.2	19.9	85.0	107.7	5.1	15.4
7月	31.0	24.0	4.0	29.9	35.1	24.9	74.0	267.2	3.7	12.0
8月	68.5	27.0	8.0	30.4	34.9	26.4	74.0	242.1	4.8	12.1
9月	191.5	76.5	11.0	28.9	33.9	23.0	75.0	186.1	4.9	17.4
10月	192.0	118.5	12.0	27.0	33.0	20.0	73.0	155.8	6.3	22.4
11月	188.0	81.0	11.0	22.8	27.9	15.9	71.0	85.6	5.4	12.1
12月	57.5	21.0	6.0	18.0	25.5	13.1	61.0	101.5	5.3	13.2

* 降水日数は、1 mm以上の降水量があった日数としている。

*「)」は、欠則を含む値であるときを指す。

土地及び気象

字別面積



歴代三役

村 長			助 役			収 入 役		
代	氏 名	在職期間	代	氏 名	在職期間	代	氏 名	在職期間
間切長	松 田 平 治	1897. 1 ～ 1898					島 袋 盛 助	1897. 1 ～
	比 嘉 自 助	1898 ～ 1906					”	
	大 城 亀 作	不 明					”	
初 代	島 袋 盛 助		初 代	大城又次郎	1921 ～ 1922	初 代	比 嘉 明 吾	不 明
2 代	松田光次郎		2 代	知 花 清 俊	1922 ～ 1930	2 代	島 袋 一 二	
3 代	比 嘉 明 吾	1911 ～ 1912	3 代	石 嶺 伝 孫	1930. 5 ～ 1934. 5	3 代	波平新九郎	
4 代	知 花 英 康	1913 ～ 1922	4 代	知 花 清	1934. 6 ～ 1941. 5	4 代	知 花 清 俊	～ 1922
5 代	大城又次郎	1922 ～ 1930	5 代	伊 波 俊 昭	1941. 6 ～ 1945. 3	5 代	神 谷 嘉 正	
6 代	比 嘉 伊 八	1930. 5 ～ 1934. 5	6 代	松 田 平 昌	1946. 4 ～ 1948. 2	6 代	比 嘉 伊 八	～ 1930.4
7 代	比嘉幸太郎	1934.11 ～ 1941. 5	7 代	喜友名正謹	1948. 3 ～ 1952. 4	7 代	新 垣 亀 作	1930. 5 ～ 1934. 5
8 代	知 花 清	1941. 6 ～ 1945. 3	8 代	伊 波 俊 昭	1952. 6 ～ 1956. 4	8 代	伊 波 俊 昭	1935. 5 ～ 1941. 5
9 代	知 花 英 康	1946. 4 ～ 1947. 9	9 代	知 花 成 昇	1956. 6 ～ 1960. 4	9 代	山 城 亀 吉	1941. 6 ～ 1945. 3
10 代	松 田 平 昌	1948. 3 ～ 1950. 8	10 代	松 田 宗 美	1960. 6 ～ 1964. 7	10 代	仲 本 政 公	1946. 4 ～ 1947. 9
11 代	当 山 真 志	1950. 9 ～ 1952. 3	11 代	古 堅 宗 光	1964. 8 ～ 1970.11	11 代	新 垣 増 朗	1948. 3 ～ 1952. 3
12 代	喜友名正謹	1952. 5 ～ 1956. 2	12 代	山 内 繁 雄	1971. 1 ～ 1974. 6	12 代	大 城 正 夫	1952. 6 ～ 1957
13 代	伊 波 俊 昭	1956. 4 ～ 1960. 4	13 代	安 田 慶 造	1974.10 ～ 1994.10	13 代	池 原 昌 徳	1958. 1 ～ 1962.11
14 代	知 花 成 昇	1960. 4 ～ 1962.10	14 代	当 真 嗣 清	1994.10 ～ 1998.10	14 代	古 堅 宗 光	1963. 1 ～ 1964. 7
15 代	池 原 昌 徳	1962.12 ～ 1970.12	15 代	松 田 重 信	1998.11 ～ 2002.10	15 代	安 田 慶 文	1964. 8 ～ 1966. 6
16 代	古 堅 宗 光	1970.12 ～ 1974. 6	16 代	石 嶺 傳 實	2002.11 ～ 2007. 3.31	16 代	山 内 繁 雄	1967. 1 ～ 1970.12
17 代	山 内 徳 信	1974. 7 ～ 1998. 1				17 代	池 原 恒 徳	1971. 1 ～ 1994.12
18 代	安 田 慶 造	1998. 3 ～ 2010. 2				18 代	松 田 重 信	1995. 1 ～ 1998.11
19 代	石 嶺 傳 實	2010. 3 ～ 現在				19 代	桃 原 英 夫	1998.11 ～ 2002.10
※2007 (平成 19) 年地方自治法の改正により副村長制となる。								
			副 村 長			初代	池 原 栄 順	2002.11 ～ 2007.3.31
			初 代	石 嶺 傳 實	2007. 4 ～ 2009. 12			
			初 代	池 原 栄 順	2007. 4 ～ 2014. 11			
			2 代	田 島 利 夫	2014.11 ～ 2018. 11			
			3 代	仲 宗 根 盛 和	2018.11 ～ 現 在			

大字名	面積 (ha)	大字名	面積 (ha)
喜 名	491.2	瀬名波	115.4
親 志	216.6	長 浜	259.4
座喜味	455.1	楚 辺	287.7
伊良皆	216.4	渡具地	78.1
上 地	29.4	比 謝	60.5
波 平	184.7	大 湾	97.2
都 屋	40.1	古 堅	94.2
高志保	145.4	大 木	74.7
渡慶次	105.9	比謝疔	5.8
儀 間	90.5	牧 原	105.4
宇 座	168.8	長 田	175.2
合 計		3,497.7	

- 1.集計には、有地番及び無地番の土地を含む。
- 2.この集計は、土地利用基本計画における土地利用現状の
地目別面積測定を行う目的で作成したものである。
- 3.読谷村の村域面積は、国土交通省国土地理院が実施して
いる全国都道府県市町村別面積調べにおいては1/25,000
国土基本図(地形図)を使用しているため、その計測方法
の違いによる誤差と考えられる。



平成30年12月現在

歴代教育長			
代	氏 名	在 職 期 間	在 職 年 月
初 代	宮城傳三郎	自 1973.04.01～至 1977.03.31	4 年 0 月
2 代	新 崎 盛 繁	自 1977.04.01～至 1989.03.31	12 年 0 月
3 代	岳 原 宜 正	自 1989.04.01～至 1993.03.31	4 年 0 月
4 代	伊 波 清 安	自 1993.04.01～至 2001.03.31	8 年 0 月
5 代	比 嘉 隆	自 2001.04.01～至 2009.03.31	8 年 0 月
6 代	比 嘉 源 勇	自 2009.04.01～至 2012.09.30	3 年 6 月
7 代	松 田 平 次	自 2012.10.01～至 現 在	

平成30年12月現在

歴 代 議 長			
代	氏 名	在 職 期 間	在 職 年 月
初 代	知 花 清	自 1948.09.18 ～至 1950.09.17	2 年 0 月
2 代	仲 本 政 公	自 1950.10.05 ～至 1962.09.27	12 年 0 月
3 代	知 花 平 良	自 1962.10.01 ～至 1974.09.27	12 年 0 月
4 代	新 垣 秀 吉	自 1974.10.01 ～至 1980.05.21	5 年 8 月
5 代	伊 波 栄 徳	自 1980.06.20 ～至 1988.06.03	8 年 0 月
6 代	儀 保 輝 和	自 1988.06.20 ～至 2002.09.27	14 年 3 月
7 代	前 田 善 輝	自 2002.09.30 ～至 2010.09.27	8 年 0 月
8 代	新 垣 修 幸	自 2010.09.28 ～至 2014.09.27	4 年 0 月
9 代	伊 波 篤	自 2014.09.28 ～至 現 在	

平成30年12月現在

歴代副議長			
代	氏 名	在 職 期 間	在 職 年 月
初 代	知 花 英 夫	自 1948. 09. 18 ～至 1950. 09. 17	2 年 0 月
2 代	天 久 源 吉	自 1950. 10.05 ～至 1955. 09. 27	4 年 6 月
3 代	大 城 伊 清	自 1955. 03. 25 ～至 1958. 09. 27	3 年 6 月
4 代	知 花 平 良	自 1958. 09. 29 ～至 1962. 09. 27	4 年 0 月
5 代	山 城 吾 助	自 1962. 10. 01 ～至 1970. 09. 27	8 年 0 月
6 代	漢 那 朝 章	自 1970. 09. 28 ～至 1974. 09. 27	4 年 0 月
7 代	伊 波 栄 徳	自 1974. 10.01 ～至 1980. 06. 19	5 年 9 月
8 代	大 城 英 三 郎	自 1980.06.20 ～至 1982. 09. 27	2 年 3 月
9 代	山 内 真 永	自 1982. 09. 28 ～至 1986. 09. 27	4 年 0 月
10 代	儀 保 輝 和	自 1986. 09. 29 ～至 1988. 06. 19	1 年 9 月
11 代	知 花 治 雄	自 1988. 06. 20 ～至 1998. 09. 27	9 年 3 月
12 代	當 山 眞 市	自 1998. 09. 28 ～至 2002. 09. 27	4 年 0 月
13 代	知 花 勝	自 2002. 09. 30 ～至 2006. 09. 27	4 年 0 月
14 代	城 間 勇	自 2006. 09. 28 ～至 2010. 09. 27	4 年 0 月
15 代	照 屋 清 秀	自 2010. 09. 28 ～至 2014. 09. 27	4 年 0 月
16 代	城 間 勇	自 2014. 09.27 ～至 2018.09. 27	4 年 0 月
17 代	上 地 榮	自 2018. 09. 28 ～至 現 在	

統計からみた
村民の暮らし
(平成 29 年)

死 亡
1 日に 0.9 人

離 婚
1 月に 7 組

水 道
1 人 1 日
平均使用水量 328L

村税負担金
1 人あたり 96,366 円

人 口
(41,427 人)
1 世帯あたり 2.6 人

転 入
1 月に 155 人

村議会議員
(19 名)
村民 2,132 人に 1 人

交通事故
3 日に 1 件

村の予算
1 人あたり 407,055 円

人口密度
1 km² あたり 1,174 人

転 出
1 月に 159 人

村職員
(273 名)
村民 152 人に 1 人

救急出動
1 日に 5.2 件

出 生
1 日に 1.1 人

結 婚
1 月に 18 組

ゴミの排出量
1 人 1 日に 0.9 kg

火 災
24 日に 1 件



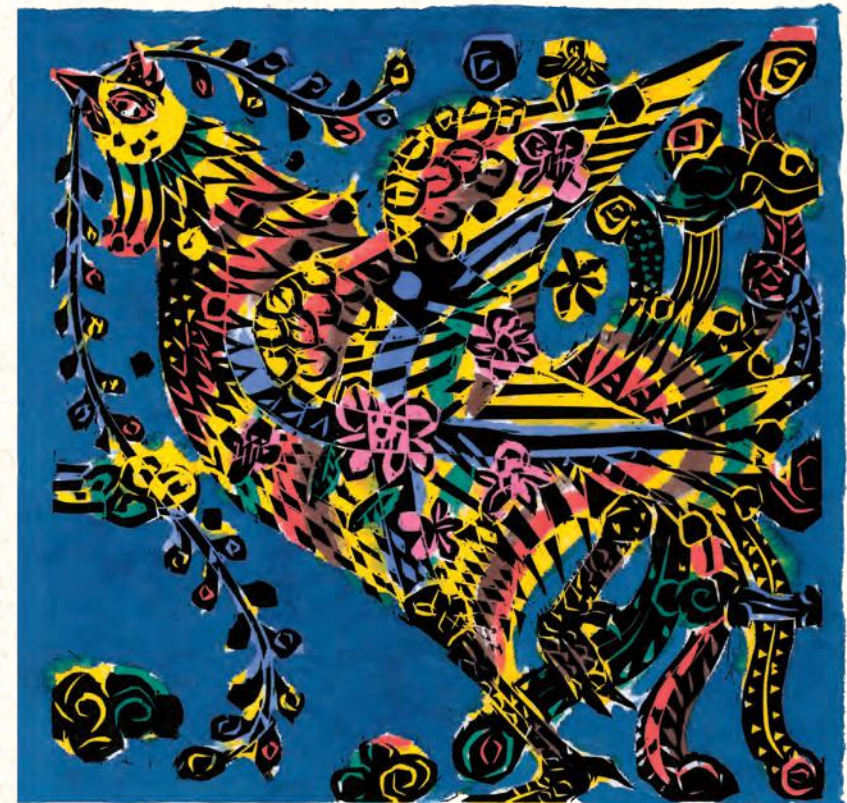
読谷村歌

(昭和五一年三月二四日制定)
作詞 渡久山朝章 作曲 田場盛徳 編曲 高宮城徹夫

一 矢倉の嶺の 朝ぼらけ
残波の里や 比謝川畔
座喜味の城の 森かげの
和みの郷は 明けて行く
えにし結べる 村人の
これぞ産土 うまし村

二 歴史は古き大北の
遠き世々から 受けつぎし
民族文化 燦然と
光り輝く 誇らかに
ここに咲きたる 花織や
インコネアガリ 声高し

三 新しき世の 訪れぞ
平和の願い 胸に秘め
協和向上 目標にて
住み良き村の 建設に
同胞ともに 手を取りて
いざ進めなん 自治の旗



画：名嘉睦稔

読谷村「村木・村花・花木・村魚」

村木：フクギ

雄雌異株で高さ20mくらいに達する常緑広葉樹。沖縄では古くから織物用の黄色の染料を採る材料（樹皮）として利用されるとともに、海岸、屋敷の防風林としてかかせない沖縄を代表する緑化樹である。

(2000年3月制定)



花木：コガネノウゼン (イPPER)

高さ30mくらいに達し、直立する落葉広葉樹。原産地はブラジルで、本県には1974年に導入された。鮮やかな黄色の花は南国的な雰囲気をかもし出す。

(2000年3月制定)



改正 平成12年4月18日告示第25号
(村木・村花・花木)
公布 平成29年7月14日告示第98号
(村 魚)

村花：ブーゲンビレア

情熱・明るさ・繁栄の象徴をあらわしている。ブラジル原産のツル性花卉。日当たりがよく水はけのよい土地を好み、栽培も挿し木で増やせる。1年を通して色どりの花を咲かせてくれる。

(1986年4月制定)



村 魚：ジンベエザメ

成長すると10m～12mになる世界最大の魚類。本村の大型定置網で年間に数匹が捕獲され、都屋漁港沖にある大型生け簀で飼育されており、今ではジンベエザメを活用した観光プログラムが定着するなど、言わずと知れた本村の海洋資源のシンボリックな存在となっている。

(2017年7月制定)

令和元年度 読谷村村勢要覧

発行：沖縄県読谷村役場 ゆたさむら推進部企画政策課
TEL 098-982-9205 <https://www.vill.yomitani.okinawa.jp/>
発行年月：令和2年3月 制作・印刷：株式会社 プロジェクト・コア